

支店長席



環境配慮の工法を積極アピール

「3年後に開催される大阪・関西万博関連プロジェクトに対し、どう動くかがかぎとなる」と第一声。関西支店は民間工事が順調だが「カーボンゼロなど、環境対策

日本道路関西支店長

白川 一浩氏



が社会的な課題となる中で、当社が展開中の『PETアスコン』など環境に配慮した工法を積極的にアピールし、さらなる受注へつなげていきたい」と抱負を語る。

同社は3月末に清水建設の連結子会社となった。「以前から良好な関係が構築できており、今後も特に土木分野で人材交流などを図りながら、両社が培った知見や技術を共有して競争力を強化したい」と意気込む。

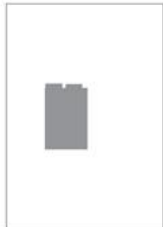
支店の職員には意識改革を促している。「まずは固定観念を捨てよう。慣例に縛られずさまざまな目線で物事を見てほしい」と提

案。

また、「長時間労働の是正や現場での安全確保に向けた取り組みなど、建設業の課題を解決するためにも一人ひとりの意識を変えることが重要だ」と力説する。

入社以来、30近い事業所を渡り歩いた。「人脈ができ、仕事をすすんで大きな財産になっている。若い人にも多くの人と関わることで成長してほしい」と話す。

1990年3月東京農大農学部農業工学科卒業後、同年4月日本道路入社。2012年4月東京支店西東京営業所長、15年4月北信越支店工事部長兼工務部長、20年4月関西支店工事部長兼工務部長を経て4月1日から現職。趣味はサッカー観戦。好きな言葉は『一期一会』。長崎県出身、54歳。



建設通信新聞

2022年04月22日 009面 01版 No. 06